

お祈りの為著「二十世紀の山説」

下されありがたうお愛護しおした思ひ

かけがる御苦懐感佩の外ござい

多せぬ。衷心より深謝申す所

早速お漢清しおしたか落物致を答

あすこゝ多大。感謝熱中巻を措く

能事おして三日目にお見し了りました。

御教に對して心かり厚らう礼を申す

有す。内外懐多中の讀者は清しき

ものの、文學理論に通曉せぬ文學者

暗ら。いままで全くボンヤリ過さ

とどが、御為教より始めのうら

照らされ、喜悅感謝措く所を

おせぬ。また清んねことござい

テニがアルの「チボ才家」の

一九一四年夏に對する御解説、

的透易解。才一次世界大戦に際

フランス末年の對極的悲劇の典

ものを表現消しおした作者の

手法の力強さを想像することが

らる

首肯

トの

分

さま

構造

心

世界

の

を

と

に

向

の

後

の

類

似

た

地

中村光夫様

田辺元

六月十二日

群馬縣吾妻郡
北軽井沢
田辺元

時下り目要を祈つるやみま
身は
似
た
地
へ